

実習体験を通して育つもの ー幼稚園教育実習における保育科学生の姿ー

竹 村 壽美子

(平成18年 3月31日 提出)

この研究ノートは、幼稚園での教育実習を体験した学生から生まれたものである。

この中には、保育者をめざす学生の熱い思いがある。このページには、学生の人間としての育ちが見える。生の声がきこえてくる。そして、この研究ノートは、指導者の私を励まし、限りなく学生を信じるそんな勇気を与えてくれる。何故なら……彼らはあの、不安に揺らぐ日々から見事に自らの進む道を見つけ出したのだから。

本学では、平成17年度より、幼稚園実習は一括 4 週間の期間となっている。すでに学生は 1・2 セメスターで保育所実習 (前半 2 週間)、児童福祉施設実習 (10日間) を体験している。2 回の実習体験をいかに活かし、今回の長期の実習に入れるかと期待を持った。幼児との関わりもきっと深まるだろう。実習目的である幼児理解、保育技術の習得、幼稚園教諭としての自覚など、十分に学び得る最高の場である。実習は専門職をめざして行われるプログラムである。したがって社会人として、職業人としての責任を自覚する機会でもある。期間中現場では保育者としての人間性はもちろんのこと、豊かな保育技術も求められる。自らの適性を知る最ものチャンスである。

この研究ノートでは、4 週間の教育実習を終えた学生が、さまざまな学びをどのように自分に重ね、どう育ったか、将来にどのように繋げることが出来たか、語ろうと思う。

キーワード：実習指導、実習体験、幼児理解、保育者としての適性、自らの育ち

幼稚園教育実習指導をはじめるにあたってー 学生に伝えたい保育姿勢

あのやわらかい幼児を前にして、あなたたちの幼児理解は、どう始まるのだろうかと案じる。今あなたたちの目の前にいるすべての子ども (幼児)、どの子も自ら育つものをもっている。それを育てていこうとするのが保育を志す人の大事な心でありおこないである。幼児教育の研究と実践に一生を捧げ、わが国の保育界第一人者・幼児教育の父、とさえ言われている倉橋惣三の言葉を伝えたい。あまりにも有名な言葉である。

「自ら育つものを育たせようとする心。それが育ての心である。世にこんなたのしい心があろうか。……」⁽¹⁾

私は保育を生涯の仕事と決めたある日、この言葉に出会った。私の子ども理解はここから始まった。「強いて育てるのでもない。激しく励ますのでもない。ただ自ら……育つものを育たせているのが五月の日光である。」私もこうありたいと切に思った。

しかしながらその第一歩は何から始まるのだろう。幼児教育の第一義。それは幼児生活の価値を

竹 村 壽美子

知る態度。子どもは愛護されることはあってもその価値を無視されやすく、理解されにくいことがある。幼児教育のすべての問題はここから始まる。幼児生活そのものの価値に無理解、知らずして、学ばざるにして何を得ることができるだろうか。

ここに、幼児が大型積み木で遊んだあとの事例をひとつ。想像豊かに集団で作り上げた構成遊び。何かの時間の制約かその遊びは終わった。子どもたちは片付けを始めた。この時の幼児生活に価値を見出せるだろうか。さっきまでの想像豊かな自主的な構成遊びとは違う緻密で確かな片付け方が、そこにある。同じ形を揃え、数を確かめ、協力して収めていく。保育者はともすれば構成遊びは評価するが、この場面は見逃しやすい。その価値を無視してしまう。隙間、隙間に見える子どもの生活の価値を学ぼう。そこに自ら育つものが見えてくる。幼児教育の真の意味の大家は、幼児の生活のひとつま、ひとつまに、育ちがあることを知っている人であると思う。

やがて保育者になるあなたたちに、その日の為にこんなことを伝えたい。

以上のような思いで幼稚園教育実習指導の初回の授業を終えた。

実習がはじまって

さて、私のつたない授業で保育に対する向かい方、幼児理解に関して、いわば、保育姿勢だけは熱く語ったつもりであったが、どこまでそれが伝えられたか不安なまま実習に入った。

*ひとつの大きな衝撃

実習巡回訪問中に事務局実習担当者から緊急の電話が入った。「Aの実習園に至急連絡してください。」とのこと。何かと案じつつ急いで電話をかける。受話器から聞こえる園長の、憤りの声に、落ち着いて落ち着いてと自分に言い聞かせる。子どもに怪我でもさせたのか、それとも何かトラ

ブルでも起こしてしまったのか。不安は最高につのる。唯唯黙って聞きながら次の言葉を案じていた。そして詫びるしかない。しかし、怪我をさせたのでもない、トラブルを起こしたのでもない、実習生としての態度に問題があるということだった。実習中に遅刻がある、実習ノート等の提出物が遅い、行動に積極性がない、その場に応じて動けない、言葉づかいに誠意がないなど。彼の人間性にも関する問題の指摘が続いた。「こんなことでは、もう実習は続けていただけません。」「今にも引取りにきてください!!大学ではこんな学生はどうしておられるのですか。」その他いろいろ……空しくなる気持ちを抑え、抑え、とりあえずは深く詫びる。翌朝早速幼稚園開門を待って訪問する。実習生は深く頭を下げ、見るからに元氣なく私と対面した。その時またしても園長の否定的な言葉が後をついた。「このままでは後の実習は続けてもらえません。」「何とか話し合ってみますから、1日～2日待っていただけないでしょうか。」と伺ってみても、「待ってみたいは見込みありませんよ、彼には。」と学生の前で冷たい言葉であった。

彼の性格に関しての問題は感じるころはあったが、しかしそのことも、実習中に学ばなければならない課題でもあった。ただちに彼と向き合い実習中のことや、今後の実習への向かい方に関して話し合うことにした。しかし、あの時の園長の言葉はあまりにも衝撃的であったようだ。彼の挫折感は救いがたくその反動か、再びあの園で実習は続けられないという気持ちと、幼稚園免許を諦めざるをえないという固い決心になってしまっていた。しかし、保育士資格だけは取得したいという、自分に対する責任感と熱意は強く、何とかそのことは生かしてやりたいと強く思った。そんなふうに判断せざるを得なかった。実習開始から5日目にこんな出来事に直面。はじめの不安は、こうした現実と直面することによってつぎのように、

実習体験を通して育つもの

私の中での課題意識となった。

- ① こういうトラブルもあるということから、あらためて学外実習のあり方を考えざるを得ないということ。
- ② 他の実習生も無事のりこえてくれるだろうかという心配。
- ③ 私が伝えなかった実習姿勢はどう伝わっているのか。

実習関係の指導書には実習に入るにあたり、学生の礼儀、しつけ、こうあらねばならないということなど、必ずマニュアル的に示されている。礼儀とかしつけは大切なことであるが、どこまで具体的に指導しなければならないのか考えさせられる。ややもすれば本末転倒になりがちなこともある。保育の本質、保育のあり方、保育者の基本的な姿勢をないがしろにしてしまうのではないだろうか。いかに実習をうまく切り抜けるか、それも大事なことであるが、私の観点としてははじめに記したように、保育者をめざす学生には先ず実習を機会に、保育者として姿勢、幼児理解を深めてほしいという願いがあった。かつて現場で実習生を受け入れる立場にいた時、口癖のように言っていたことがあった。「実習中は何よりも多く子どもと関わって、子どもを知ることです。雑用や事務、指導の先生の意向ばかりを気にしては、肝心の子どものことを理解することなく終わってしまう。専門家をめざすための実習である以上子どもに学ばざるにして何の意味もありませんよ」と。実習生を育てる現場の長の一人としてこの気持ちは固かった。今も変わっていない。

さて、この衝撃から4週間の実習期間を学生たちが無事のりこえてくれたあかつきには、彼らの実習生活を広く深くさぐってみたいと考えた。体験したさまざまなことを、気持ちの聞き取りも折り込み、自らの保育課題、幼児理解も含め、学生

の実習体験を可能な限りありのままに把握しようと思った。そうしたことから、事後指導として彼らの育ちの姿を浮き彫りにしてみたいと考え、アンケートを作成した。(アンケート内容と結果は、参考資料として末尾に掲載)

実習後の学生の姿から－実習を通して育つもの

ここでは、実習後の学生の姿から印象深かった内容を紹介する。事後指導のなかで学外実習で体験したことを、具体的に話し合い確かめ合ったこと、また、自らの進路に実習を通して確信をもち、4月から新任としてスタートした例もある。

① 幼児理解に関して学んだこと

- ・ 幼児一人一人の行動には、それぞれの思いがあるということは、見ていて解かるがその思いは何であるか知ることが出来ず、くみ取れず対応に迷った。
- ・ 子どもの遊びは相当広く深い。どんな遊びや生活でもすべて学びや、成長に繋がっているのを感じた。その行動のなかで一人一人を認めていくことが大事だということが解り、そんな時に子どもとよい関係になった。
- ・ 子どもを受け入れる心にぎこちなさがあり、笑顔や、やさしいまなざし、楽しむゆとりがなく、子どもと接することに時間がかかった。
- ・ 子どものトラブル解決法や、遊びのルールは、子どもなりの方法があるのを知った。特に謝り方や、遊びのルールには、大人の考えとはちがう不思議なものがあるようだ。
- ・ 子どもにとって自由遊び、特に戸外遊びは設定保育より楽しそうである。自由に遊んでいる時の子どもと環境のかかわり方には、一人一人の方法がある。生活面でも家庭から連なっていると感じる場所も多くあった。
- ・ 子どもに対する言葉がけの乏しさを感じ、コ

竹 村 壽美子

コミュニケーションの第一歩に悩む、でも子どもの行動をしばらく見守ることを知り糸口がつかめた。

②幼稚園の先生について学んだこと

- 子どもへのやさしさ、あたたかさ、ことばかけ、まなざしなど見ていて真似の出来ないような技に思えた。このことは先生のそばでつぶさを感じさせてもらえたので実際によく理解できた。
- 先生の努力や頑張りは即子どもたちに伝わり、子どもが生き生きと活動的になる。一方先生の表情のきびしさや、せっぱ詰まった行事等のとき、子どもは受身的な存在で元気がない。でも先生の忙しさも解るが……。
- 責任感のあるそしてやりがいのある仕事だと思う。子どもにとって先生はあこがれの存在として常にいるようだ。先生に褒められたい、先生に知られたい、という思いで近づいているように見える。子どもにとって先生というのは、日々新鮮さのあふれるような人でなければと感じた。
- けじめ、許すことはその時どきの先生の判断や方法のようだと思う。その時の方法と先生と子どもの関係が大事だと感じた。
- 職員会議のときに、先生同士の意見のぶつかり合い（トラブル）を目の当たりにした。驚きとともに現実的な問題として学ぶ機会となった。よけいなことかもしれないが、子どもの前でなくて良かったと思う。

③ひとりの人間として育ったこと

- 実習は実社会で勤務しているのと同じであり、学生という恵まれた環境をふりかえり、きびしさの足りない自分を反省する機会となった。自分としては精一杯努力していても、現場の

きまりや、方法、立場があって受け入れてもらえないことも多い。

例えば掃除の方法、危険に関しての配慮、人間関係、言葉づかいなど、自分の未熟さを感じる。

- 子どもから「先生」と呼ばれたり、「やさしいから好き」といわれて恥ずかしい気もしたが、大変うれしく快かった。こんな一言からでも「やっぱり幼稚園の先生になりたい」という気持ちが強く、意識も高くなった。
- 送り迎えの保護者は、どの人も子どものことを愛し、考え、大切にしているのがわかった。自分の幼い頃のことを思い出し、今成人した自分を見つめることが出来た。あらためて今後の進む道に真剣に答えを出さなくてはと、せっぱつまった気持ちになった。
- 幼稚園の先生、社会人としての責任はどのようなものか、実際の現場で具体的に学べ、理解もできた。その上にたって自分の進む方向はと判断の基になり、決断を早めることにも遅らせることにもかなり勇気がいると思った。

④男子学生の「実習をふりかえて」という会話から

S 幼稚園実習どうやった！

K 楽しかったよ。

S エッ？何が？

K やっぱり子どもと関わってやりがいもあったし、子どもからいろいろなことが学べたし素敵な4週間だった。

S そっかぁ！

K 君は？

S なにはともあれ社会に出たらこんな毎日が続くのかと思うと、なんと楽しいことかと思った。子どもたちから学ぶことってすごいことや！何が楽しい、何が嬉しい、何が

実習体験を通して育つもの

痛い、何が悲しいかってこと、俺ビンビン
伝わってくるのや、そのことが自分自身成
長したなあって思う。

K 共感やなぁ……で……何かいやなことあった？

S 日案のことかなぁ、君は？

K 設定の時トレットーパーの芯を使ってはいけ
ないと言われて、にわかに厚紙で筒を作ったことかなぁ。それって担任の先生の
感覚かなぁ、他に自分の世間知らずなこと
に気づけたよ。

S そっかぁ。

K 何か驚いたことあった？

S とにかく今ごろの子どもってませてるなぁ、
特に五歳児ちょっと甘く見すぎてたかなぁ。

K 製作の時自分では思いもつかないことを想
像していて感動させられたなぁ、それから
クラスの中でいじめもあったこと。

S へー、先生とうまくいけた？

K 全然慣れへんかった。

S へー、俺は慣れたよ。

S 本気の先生と本気じゃない先生がいた、実
習生から見てもすぐ感じた。

K 先生って予定が詰まっています全然余裕がな
いようだなぁ。

S そうや！どの子のことも、もっとじっくり
思いたいので、その時間がないみたいや。

K それが現実なんやなぁ。

S 楽しいムードやったけど深く考えてみると
大変やったみたいや。

こんなふうにお互い語り合い確かめ合っていた
場面からも、彼らの見逃せない育ちの姿を感じた。

⑤二人のエピソード（卒業を前にして）

* 「わたし、絶対幼稚園の先生になる！」

と言い切るM. Iは、実習後就職活動に動しんだ。
「ピアノ」を生かせることの出来る喜びを実習の
時に体験したと言う。自分で計画を立てた保育案
で保育をした時、子ども自ら次々と遊びを展開さ
せ、思いもよらない発想や、自分が想像もしなかつ
た深まりを見たという。保育者として自分が導き
たいことを満足させ、それ以上に子どもの秘めた
能力や、生きる力を見ることの出来るのは幼児教
育であると熱っぽく語る。「で、いつ、その決心
をしたの？……」と尋ねると「実習中！」とすか
さず答え、「設定保育で子どもたちが私を感動さ
せてくれた時」と答えてくれた。実習中の幼児の
目の輝き、動きのひとつま、ひとつま、その一瞬
一瞬に彼女は自分の進む道を見出したようだ。学
内の授業では、まだまだ夢のように語っていた彼
女だが、こんな幼児の姿に幼稚園の先生になるこ
とを、胸に深く刻みこみ、思いを固めた。4月
には幼稚園の先生になる。

* S. Oからの一通の手紙

彼女は冒頭に紹介した学生と同様に、事情は異
なるがこの実習に挫折した一人である。よくあり
うことだが、あまりにも教師の指導性が前面に
出すぎた幼児への引き回しに耐えることができな
かったようである。⁽²⁾

「私は保育科に入学、そして卒業を前に、自分が
望む保育所に就職が決まった今、出会いの大切さ
をしみじみ実感しています。幼稚園実習を2日目
にして実習辞退の固い決心をしてしまいました。
周りから見れば単なる挫折や、自分に対する甘え
と写っているでしょう。私自身もこの選択はもし
かして甘え？ではと言う風にも認識していました。
でもその時点で、このまま1ヶ月自分の気持ちを
偽って、子どもたちの前に立ち続けることは出来
ない。1ヶ月後の自分に残るものは、きっと子ど

竹 村 壽美子

もたちにあのときは、自分を偽ってきたという後悔だけではないだろうか。今決心しなくてはいけないと思ったのです。実習辞退ということは、実習園にも大学にも大きな迷惑をかけるということは、十分わかっていました。幼稚園教諭の免許も取得出来ないことになります。これから就職活動をするに当たっても大きな障壁となり、不安も広がるばかりでした。そんななかでも保育職にだけは絶対につきたいと願い続けて、2回目の保育実習に入りました。張りつめた気持ちのなか、精一杯の実習をさせていただきました。そのうち私は、何とか保育士としてだけは就職したいと強く願うようになりました。今度の実習園は、人間関係の良い雰囲気、何より園児が明るく元気一杯でした。出会いの大切さを感じながら、2週間の実習はあっという間に終わってしまいました。今思えば幼稚園実習を辞退したこと、幼稚園免許が取得できない現実の前で保育職にだけは、絶対つきたいと願い続け、保育所実習を体験したことは、私の心の中にある保育職への必死な気持ちがあったからだと思います。そして今この喜びがあるのではと感じています。」

以上のような内容から幼稚園実習のさまざまな体験を通して、保育に対する向かい方、幼児理解、幼稚園教諭として、また一人の人間としての育ちを見通した時、どの学生も直面した目の前の子どもたちに戸惑いながらも、何とか関わろうとした努力、熱意、実習態度が想像できる。幼児理解のむつかしさ、大切さについての感想を述べる学生も多い。そういう意味でも私の願いである保育姿勢の基本にかかわる部分については、大いに学んでくれたと思う。また、幼稚園の先生から学んだこととして、子どもへのあたたかさ、まなざし、やさしさ、努力や頑張りが即子どもに反映することへの気づきなど、その実際体験から保育

者への意識を高めた学生も多かった。

一方学生にとっては、ちょっと驚きである職員間のトラブルを目の当たりにしたという感想もあって、実習が実社会の緊張のなかで行われているということも認識でき、貴重な体験に繋がったと思える。実習を通して学生という恵まれた存在にふと気づき、自分を反省することに繋がったということは意外だった。その素直さがつぎの成長へと一歩進むだろうと期待する。同じように送り迎えの保護者の姿から子どもへの愛を見つけたことは、尚更に私を驚かせた。意外なところに学生の育ちの一片が存在していたように思う。そして今彼らは20歳の節目をむかえ、そこに自らの育ちをあらためて確認したようだ。学外実習の学びの大きさと意義深さを深く感じる。紙面の都合で書ききれないのが残念である。

それぞれに「実習を通して育ったもの」を確認し合ったあと、私は再び倉橋惣三の教えを学生に伝えることにした。「幼児教育に多くの基礎的知識を必要とすることはいうまでもない。しかし、子どもの心性を知るということも、子どもといかに関わるかということも、本や講義から学び得ることではない。もとはといえばいうまでもなく子どもから学ぶことである。直接に子どもに学ぶことによって得る直伝的知識である」⁽³⁾ と。

あなたたちは、倉橋のいうこの言葉どおり実習のなかで、子どもたちから学んできたのである。保育者としての必要なことの多くは、この言葉のように子どもから学ぶものである。こんな言葉を添えて実習事後指導の授業を閉じることにした。

おわりに

ほとぼしる学生の熱い思いが……手に手を伝わって、ここに一編の研究ノートが出来上がった。アンケートの結果を見る時、事後指導のなかの声、

実習体験を通して育つもの

さらには、卒業を前に自らの進む道を見出した姿、何と立派に成長してくれたことかと感動する。

学生に伝えたかった私の願いは、子どもを前にしてどう感じただろうか。ドキドキしながらもこのことには殊の外注目せざるを得なかった。

はたしてどの学生も、ほとんどは幼児理解のむつかしさを訴えていた。そして子どもの遊びや、生活のなかに学びや育ちのあることに気づいていた。このことは、実習のなかで意識的に保育を学ぼうとしていたことだと受けとめたい。

一方保育現場で大きな衝撃をうけ、自らの進路を変えざるを得なかった例。社会人としての礼儀や、しつけ、言葉づかいに関しても、実習園から指摘、指導を受けたことも学生は十分受け止め自分の課題であると認めている。私自身も保育者養成校と実習園との連携に関しても今後とも検討を重ねていきたい。

しかし、何が肝心かというところで学外実習から、将来保育者としての重要な学びをしてくれたこと、これらをすべてを含め学生が自ら育った姿を見るにつけ、この上もなくよろこびであり、ほっとしている。これからも保育者として学ばなければならないことは、数限りなくある。この実習体験を基にし、ひとすじ人生目標達成のため励んでほしいと願っている。

はじめの授業で「自ら育つものを、育たせようとする心、それが育ての心である……」と伝えたこと。そっくり、そのまま今の自分に言いかせている。「学生は自ら育つものを持っている、それを誘い育てていく心、それが育ての心である。そしてわたしの役目である」と。

津守真は、エリクソンは「育てることを壮年期に学ぶ徳として位置づけた」と言い、保育専門職の性格について、「保育の専門職とは他者を育てることを自らの人生の課題として負うことを選択した者のことである」⁽⁴⁾ と言っている。私はこの

言葉に深く共感を覚える。人間としての育ちの姿は乳幼児期に求めるだけでない。保育者をめざす学生も、その学生を育てる教師も、共通に担う課題ではないだろうか。

註1 倉橋惣三「育ての心」上 フレーベル館 1976, P 8

2 教師・保育者の“ひきまわし”問題については、学生はその純粋さゆえか、とくにこだわりをみせる場合がある。小田豊はこの問題について、「求められている『子どもの自主性』の展開とは指導過剰の保育と楽観的保育の狭間にある溝を埋める『働きかけ』を具体化することを示している」と言い、いわば管理でもなく放任でもない、幼児教育本来の「育つことへの働きかけ」という指導観の重要性を強調している。こうした観点自体は、事前指導のなかでも十分留意されるべきであり、学生がより広く現場の実態を受けとめることができるよう心がけたい。(小田豊『幼児教育再生』小学館 2003, P 56)

3 倉橋惣三『倉橋惣三の保育者論』フレーベル館 1998, P 29

4 津守真「保育者としての教師」佐伯胖・黒崎勲他編『教師像の再構築』岩波書店 1998, P 167

参考文献

- 1 森上史郎・高杉自子・柴崎正行編『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 1999
- 2 久家英述「乳幼児の成長・発達と保育方法」鯉坂二夫・上野恭裕編『新保育方法論』2000
- 3 民秋言・安藤和彦・他編『幼稚園実習』2004
- 4 倉橋惣三『倉橋惣三選集』第一巻・第二巻・第三巻・第四巻・第五巻 フレーベル館 1992～1996
- 5 倉橋惣三『倉橋惣三の「保育者論」』フレーベル館

竹 村 壽美子

- 1998
6 倉橋惣三『育ての心（上）（下）』フレーベル館
1976
7 倉橋惣三『子どものこころのまなざしで』フレー
ベル館 1996
8 津守真『保育の一日とその周辺』フレーベル館
1989
9 津守真『子どもの世界をどう見るか』日本放送出
版協会 1987
10 津守真『幼稚園における子どもと保育者のイメー
ジ』フレーベル館 1997

〈参考資料〉

アンケートの内容と結果

- 1 調査の方法
- イ 調査の対象
幼稚園教育実習参加者 136人
- ロ 調査期間
H17年7月5・6日 実習直後
- ハ 質問用紙法による
- ニ 学生のこれまでの実習体験
- 2 セメスター時 10月 2週間保育所実習
“ 3月 10日間施設実習
- 3 セメスター時 6月 4週間幼稚園
教育実習
- 4 週間の幼稚園教育実習を終えた学生が実習先で
どのように過ごしたか、学内で学習した教科全般の
知識や技能をいかに発揮させ、幼児理解に繋げてい
けたか。幼稚園教諭に対する自覚は、また保育所実
習や施設実習の体験が4週間の教育実習にどう活か
すことができたか。
- 2 内容と結果
- 1 実習の選定について
- | | | |
|-------|-----|-----|
| 公立幼稚園 | 70人 | 62% |
| 私立幼稚園 | 43人 | 38% |

- 2 選定した理由
- | | | |
|--------|-----|-----|
| 自宅に近い | 61人 | 52% |
| 出身園 | 45人 | 38% |
| その他 | 11人 | 10% |
| 採用を考えて | 0人 | |
- 3 担当したクラス
- | | | |
|-----|-----|-----|
| 三歳児 | 26人 | 14% |
| 四歳児 | 77人 | 41% |
| 五歳児 | 84人 | 45% |
- 4 子どもの実態把握について
- * 担当のクラスの子どもの名前を覚えるのに何日
かかりましたか
- | | | |
|-----|--------|--------|
| 三歳児 | 2日・12人 | 3日・9人 |
| 四歳児 | 2日・14人 | 3日・27人 |
| 五歳児 | 2日・16人 | 3日・27人 |
- * 個々の子どもの個性を前半でつかめましたか
- | | | |
|-----------|-----|-----|
| だいたいつかめた | 74人 | 65% |
| わからない子もいた | 38人 | 34% |
| その他 | 1人 | 1% |
- 5 子どもへの接し方
- * 子どもと接するのに戸惑いがありましたか
- | | | |
|--------|---|-----|
| 戸惑った | 55人 | 39% |
| 理由 | どこまで手をだしていいかわからない。
どんな言葉をかければいいかわからな
い。自分の考えが不正確。子どもが不
安。その他 | |
| 戸惑いがない | 57人 | 40% |
- * どの子にも公平に接することができましたか
- | | | |
|--------|---------------------------|-----|
| 出来た | 92人 | 81% |
| 出来なかった | 21人 | 19% |
| 理由 | 自分に寄ってくる子が多い
自分の接し方の問題 | |
- * 子どもと共に活動できましたか
- | | | |
|--------|------|-----|
| 出来た | 110人 | 89% |
| 出来なかった | 3人 | 3% |
- * 子どもに分かりやすく話せましたか

実習体験を通して育つもの

話せた	90人	80%	設定保育	23人
話せなかった	23人	20%	保育案・日案	17人
6 教育内容、教育計画、保育の実際について			保護者対応	15人
* どのようにして指導計画を（設定保育）を考えましたか			ピアノ	13人
実態を見て	42人	37%	子どもへの接し方	12人
授業の中から	37人	33%	実技 エブロンシアター ゲーム	
本・マニュアルを見て	35人	31%	発達 お話紙芝居 先生との関係	
担当の先生に聞いて	33人	29%	10 実習後の感想から	
その他	16人	14%	* 幼稚園の子どもをどうとらえたか	
* 保育に熱意を示すことができましたか			のびのび、いきいき、元気 楽しい	43人
示せた	108人	96%	素直で可愛い	30人
示せなかった	5人	4%	遊んで学んでいる	20人
7 環境への配慮			個性がある	13人
* 園内の整備整頓は積極的にしていましたか			自分で出来る	9人
していた	109人	96%	* 保護者から学んだこと	
あまりしていない	4人	4%	子どもを愛している	18人
* 通風・採光・室温			子どものことを考えている	15人
していた	87人	77%	行事に積極的である	12人
あまりしていない	26人	26%	いろいろな親がいる	5人
8 保育者としての態度について			* 幼稚園の先生について	
* 話し方は適切でしたか			すてきでやさしい先生	26人
はい	96人	85%	子どもの安全に絶えず配慮する	24人
いいえ	17人	15%	親切に指導してくれる	22人
* 挨拶はきちんとできましたか			責任感のある仕事	18人
はい	113人	100%	細かい配慮	11人
いいえ	0人	0%	* 保育していてむづかしいと思ったこと	
9 実習中に感じたこと			全員を安全に活動させること	20人
子どもの接し方	99人	85%	言葉づかい	16人
保育技術	69人	61%	保育の説明	15人
指導案の書き方	45人	40%	発達に応じた保育	13人
職員との接しかた	25人	14%	設定保育	11人
保護者の対応	10人	9%	けんかの仲裁	9人
その他			* 実習中にいちばんつらかったこと	
* 実習までに学んでおきたいこと			実習ノートを書くこと	21人
手遊びなど		28人	設定保育	18人
			睡眠不足	5人

竹 村 壽美子

暑さ	3人	はい	30人	27%
掃除 担任の先生 ピアノ 砂場の作業 グループの指導 花壇の草引き 声が出なくなったこと 子どもに慣れないといわれた時		いいえ	83人	73%
*実習中にいちばんうれしかったこと		*後輩に実習を勧めたいですか		
先生大すきと言われたこと	9人	はい	103人	91%
設定保育がうまく出来た時	8人	いいえ	10人	9%
子どもの笑顔	7人	*実習中に営められたことはどんなことですか		
〇〇先生と呼ばれた時	5人	・子どもとよく遊んでいる		22人
子どもから手紙を貰った時	4人	・いつも笑顔でいる		21人
子どもからのメッセージ ありがとうと言ってくれた時 ずっと園にいてほしいと言われた		・言葉づかいが良い		19人
11 実習の成果について		・設定保育		15人
*実習を終えて「人間として」成長したと思うことはどんなことですか		・子どもとの目線		13人
教育者としての意識が高くなった	15人	*実習中に注意されたことはどんなことですか		
子どもへの気持ちが変わった	12人	・安全への配慮		20人
精神的、体力的に強くなった	11人	・指導案の内容		18人
言葉づかい、態度がよかった	8人	・言葉づかい		16人
社会人としての自覚	8人	・礼儀作法		10人
積極的になった	7人	・子どもとのかかわりかた		7人
*幼稚園へ就職したいと思いましたか		13 昨年の保育所実習、施設実習の経験はどう活かしましたか		
はい	90人	80%	・自分にとっての課題がはっきりしていたのでその分積極的になれた	
いいえ	24人	20%	・反省点を思い出した、成長につながった	
*幼稚園の先生への自身はもてましたか			・遊びを活かすことができた	
はい	87人	77%	・戸惑いなく子どもに接することができた	
いいえ	26人	23%	・発達の遅れた子、家庭に事情のある子への接し方を思い出すことが出来た	
*幼児教育についての理解			・2回の実習で自信がもてたし、流れが掴めた	
幼児教育のむつかしさ	32人		・保育所、幼稚園の違いがわかった	
活動内容の理解	13人	14 4週間の実習はどうでしたか		
遊びが大切	11人	・はじめは長かったがあっという間に終わった		
*子どもは理解できましたか		・深く子どもと関わられてよくわかった		
はい	94人	83%	・色々なクラスに入れた、4週間は良い	
いいえ	19人	17%	・2週間では見ることの出来ない子どもの姿をゆっくり見ることが出来た	
12 その他			・実習期間の長い分レポートなどが多くてそのことが気がかりだった	
*実習先に先輩はいましたか				